

南三陸町道の駅基本計画

令和元年 8 月

南 三 陸 町

第1章 道の駅整備方針

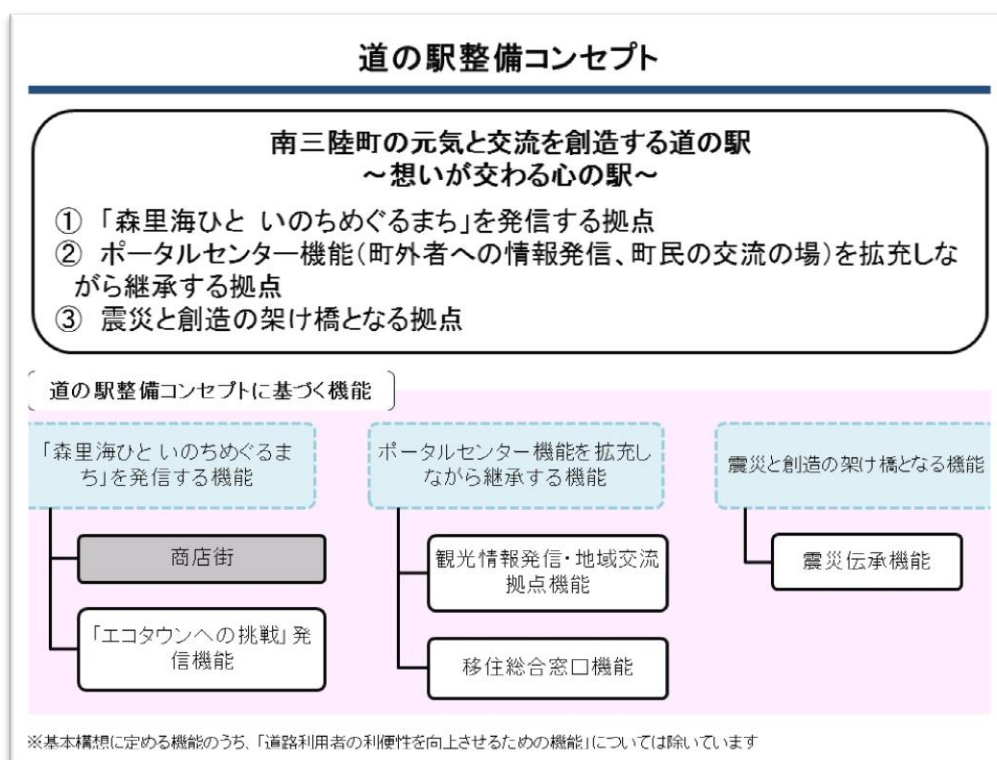
1 南三陸町道の駅基本計画の考え方

南三陸町道の駅基本計画（以下、「基本計画」という。）では、平成28年度に策定した、南三陸町道の駅基本構想（以下、「基本構想」という。）を基に、基本構想に定める「南三陸町の元気と交流を創造する道の駅～想いが交わる心の駅～」を実現するため、道の駅に整備する機能及び施設等の具体的な方針について示すものです。

なお、道の駅に整備を予定している震災伝承機能については、別途策定する「南三陸町震災伝承施設基本計画」において施設等の具体的な方針を定めます。

2 整備方針

道の駅に導入する機能及び施設、施設規模の検討に先立ち、基本構想にて定めた整備コンセプト及び整備コンセプトに基づく機能について、次のとおり整理します。



第2章 施設整備方針

1 機能（施設）連携

施設を整備するに当たっては、各機能ごとに個々の施設を単体で整備するのではなく、それぞれの施設が他の施設と機能的・空間的に連携し、より効果的な情報発信を行うことが望まれます。

ここでは、各機能・施設が連携することで想定される使われ方をイメージした上で、求められる具体的な機能連携の視点を示します。

視点①震災伝承拠点形成

隣接する防災対策庁舎は、宮城県沿岸被災地の中でも震災の記憶を伝承し、減災や防災に対する意識を醸成するための重要な施設です。道の駅に整備する震災伝承機能には町全体の震災に関する展示機能等のほか、防災対策庁舎のガイダンス機能を持たせるとともに、ポータルセンター機能と一体的に連携させることで、防災・教育学習や地域住民との交流も含めた、次世代に繋がる震災伝承のための拠点施設として整備します。また、これまで行われてきた語り部などの活動も継承できるような連携を図ります。



【使われ方のイメージ】

- 震災伝承機能（ガイダンス施設等）と防災対策庁舎の展示視察に、地域交流拠点機能での講演・研修をセットとすることで、防災教育旅行等の場としての拠点性が高まります。
- 震災伝承機能と観光情報発信機能を効果的に組み合わせることで、南三陸町独自の情報発信力を高め、町外から訪れる方々の集客・回遊を促す効果が期待できます。

視点②にぎわいを生むタウンセンター形成

当町の道の駅は、商店街を内包し観光客のみならず町民の日常生活を支える機能を併せ持つことが大きな特徴となっています。道路利用者や地域住民など様々な方々が気軽に利用できる施設が集積することで、町の中心地として日常的に賑わいを生みだします。商店街と観光情報発信機能・地域交流拠点機能を核としながら、**交通情報や地域情報といった多面的な情報の発信と各種イベント等**によりにぎわいを生みだし、町内の回遊性を高め、町に経済的・社会的効果をもたらすことを目指します。

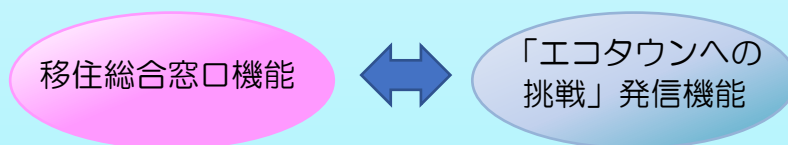


【使われ方のイメージ】

- ・ポータルセンターを使って、雨天日など商店街の屋内集客イベントの開催が可能となります。
- ・商店街と休憩機能、地域交流機能が合わさることにより、高齢者をはじめとして町民が来訪するきっかけを増やし、賑わいの創出につなげます。

視点③「エコタウン」での定住促進

「南三陸町 バイオマス産業都市構想」では、バイオマス資源を活用した産業による発展を目指しています。様々なバイオマス資源活用に向けた取組（家庭ごみの適切な分別など）が実施されており、それらの**魅力を具体的に発信**しながら、**移住総合窓口では、移住や定住を促進するための支援を実施**することで、「エコタウン」での暮らしを求める移住者への訴求力を高めて定住促進へとつなげていきます。



【使われ方のイメージ】

- ・「エコタウンへの挑戦」発信機能と移住総合窓口機能が組み合わさることで、移住先を探している方（特に環境意識の高い方など）への訴求力を高めます。
- ・地域交流拠点機能での住民活動との接点を設け、地元住民の人情に触れコミュニケーションの機会を設けることで、移住先選択の可能性を高めます。

【まとめ】導入機能の連携

導入機能		機能連携の視点		
		視点①	視点②	視点③
「森里海ひと いのちめぐるまち」を発信する機能	「エコタウンへの挑戦」発信機能			●
	商店街		●	
ポータルセンター機能を拡充しながら継承する機能	観光情報発信・地域交流拠点機能	●	●	
	移住総合窓口機能			●
震災と創造の架け橋となる機能	震災伝承機能	●		
道の駅共通機能	休憩機能・交通情報発信機能・公共交通拠点機能	●	●	●

2 機能・施設の整備方針

(1) 導入施設

機能連携の視点を踏まえ、下表の施設の整備を検討します。

	導入施設	施設整備の考え方	具体的な施設・設備等
休憩機能・交通情報発信機能・公共交通拠点機能	休憩機能施設	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ●一般車両駐車スペース ●大型車両駐車スペース ●身体障がい者用駐車スペース ●管理・業務用駐車スペース ●電気自動車用充電設備
		トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ●男性用・女性用トイレ ●多目的トイレ
	交通情報発信機能施設	道の駅を拠点として、周辺の観光情報や道路情報を、わかりやすく確認できる施設とします。	●交通情報発信モニター
	公共交通拠点施設	道の駅や周辺施設への動線を確保し、来訪者が他の交通手段への容易な乗り換えに配慮し、アクセスしやすい公共交通拠点を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ●バス停留所（BRT、高速バス、町民バス） ●タクシープール
震災伝承拠点形成	観光情報発信・地域交流拠点機能施設	防災教育の講義や研修、会議など、様々な場面で活用できる多目的スペースを整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ●ギャラリー ●貸し部屋（多目的スペース）
	震災伝承機能施設	東日本大震災に関する情報を発信する施設とします。	

にぎわいを生むタウンセンター形成	商店街	(既存施設)	(既存施設)
	観光情報発信	<p>既存の南三陸ポータルセンターの機能を継承し、観光案内所、ギャラリー、手作り品販売スペースなど、観光客や地域住民の交流の場を整備します。</p> <p>また、様々な屋内イベントに活用できる多目的スペースを整備します</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●観光案内所 ●ギャラリー ●手作り品販売スペース ●貸し部屋（多目的スペース）
「エコタウン」での定住促進	「エコタウンへの挑戦」発信機能施設	<p>国際認証（FSC・ASC）を取得した活動や、バイオマスをはじめとするエコタウンに関連した取り組みの紹介ブースのほか、再生エネルギー等を活用した発電・蓄電等施設を整備します。</p>	●ASC・FSC 認証 PR ブース
	移住総合窓口機能施設	<p>道の駅を訪れた人が、気軽に南三陸町の生活・文化に関する情報に触れ、移住に関する相談窓口を整備します。</p>	●移住総合窓口


(2) 施設の整備方針

各施設の整備方針について、次のとおり整理します。


(駐車場)

項目	内容
利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を確保し、ゆとりをもって駐車できる広く利用しやすい駐車場を整備します。 ・駐車場としてだけでなく、イベント開催時等の多目的利用も想定します。 ・サイクリストのための駐輪場も整備します。
配置	<ul style="list-style-type: none"> ・国道45号と、国道398号からアクセスしやすい位置に整備します。
規模	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量に応じた規模の駐車場を整備します。 ・大型車も含め、十分な規模の駐車場を確保します。 ・イベント時や繁忙期にも対応できる駐車スペースを確保します。
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する「さんさん商店街」に既設されている駐車場の規模も考慮します。 ・身体障がい者用駐車場は、施設までのスムーズな動線を確保します。 ・歩行者専用レーンや夜間用街灯の整備など、歩行者の安全を確保します。 ・電気自動車用充電器の設置など、利用者の利便性に配慮します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;"> { ※写真 湖畔の里福富 (広島県東広島市) 道の駅 季楽里あさひ (千葉県旭市) } </p>


(トイレ)

項目	内容
利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 多目的トイレの他、男女それぞれのトイレを車イスでも快適に利用できるトイレにします。
配置	<ul style="list-style-type: none"> 道路利用者が24時間利用できるように、屋内外からアクセスできるような配置にします。
規模	<ul style="list-style-type: none"> 交通量に応じた規模のトイレを整備します。 女性用トイレで長時間待つことがないよう配慮します。
その他事項	<ul style="list-style-type: none"> 明るさと清潔感に配慮します。 子育て世帯にも配慮し、ベビーベッドや着替え台も整備します。 節水・省電力による環境に配慮した施設を検討します。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※写真 サーモンパーク千歳（北海道千歳市）</p> </div> 

(交通情報発信機能施設)

項目	内容
利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者による町内の回遊性を高めるため、サイネージ等による情報発信を行います。 混雑状況や道路工事状況などをリアルタイムで確かめられる情報提供を行います。 来訪者や町民への防災に関する意識を醸成するために、発災時の行動や避難経路に関する情報も発信します。 観光パンフレット設置ラックも配置します。 
配置	<ul style="list-style-type: none"> なるべく多くの方の目につくよう、利用者動線を考慮した配置とします。 24時間出入りが可能となるような配置を検討します。
その他事項	<ul style="list-style-type: none"> 立寄った来訪者に自然と情報を取り込んでもらえるよう、音声ガイドが可能な設備の設置を検討します。

(公共交通拠点施設)

項目	内容
<p>利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町のゲートウェイとしてだけでなく、地域住民の利便性も考慮した公共交通施設を整備します。 ・高校生等自転車利用者のために駐輪場を整備します。 ・通学や通勤の送迎に来る方のための一時的な駐車可能な駐車スペースも併せて整備します。 <div style="text-align: right;">  <p>※写真 道の駅びんご府中（広島県府中市）</p> </div>
<p>配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設との動線を確保し、快適に公共交通を利用できるよう配置します。 ・一般車と動線が交差しないよう配置します。
<p>その他事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシープールの整備を検討します。



(震災伝承機能施設) ※別紙「南三陸町震災伝承施設基本計画」を参照。

項目	内容
<p>整備方針</p>	
<p>配置</p>	
<p>その他事項</p>	

(観光情報発信・地域交流拠点機能施設)

項目	内容
<p>利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習旅行や研修、地域活動など様々な形で利用できる貸し部屋を整備します。 ・3人掛けテーブルと椅子を設置する等、多目的に活用できるよう検討します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>※写真 なめがたファーマーズヴィレッジ (茨城県行方市)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>紫波町情報交流館 (岩手県紫波町)</p> </div> </div>
<p>配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・震災伝承機能施設と連携できるように、間仕切りについては、取り外しが可能など、それぞれの施設が空間的に接続されるような配置を検討します。
<p>その他事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のポータルセンター機能を継承します。


(観光情報発信・地域交流拠点機能施設)

項目	内容
<p>利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> レジャー・イベント、南三陸町の景観、その他の観光に関連した情報を発信する施設を整備します。 パンフレットの設置だけでなく、来訪者が自然と情報を取り込めるような発信設備（音声付きサイネージ等）の整備を検討します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>※写真 道の駅びんご府中（広島県府中市）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>道の駅いいで（山形県飯豊町）</p> </div> </div>
<p>配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多くの来訪者が利用できるよう、小規模な設備を複数設置することを検討します。
<p>その他事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> さんさん商店街と連携をとり、効果的な取り組みを行うよう検討します。

(「エコタウンへの挑戦」発信機能施設)

項目	内容
<p>利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> 南三陸町の環境に配慮した取り組みをより身近に感じてもらえる開放感のある展示ブースを整備します。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>※写真 ほたるいかミュージアム (道の駅ウェーブパークなめりかわ 富山県滑川市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内の備品は、LED電球や再生可能エネルギーを活用したボイラーの導入を検討します。 木質ペレットを活用した冷暖房設備(木質ペレット吸収式冷温水機)の導入を検討します。 舗装用発電パネル、屋上太陽光発電システム、風力発電システム(看板オブジェに設置)、小水力発電等、再生可能エネルギーを活用した設備の整備を検討します。
<p>その他事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報発信施設と連携し、FSC、ASC 認証ラベル商品を配置し、目に留まりしやすいよう整備します。また、販売コーナーの設置についても検討します。 

(移住総合窓口機能施設)

項目	内容
<p>整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所との連携をとれるような位置に移住総合窓口を整備します。 移住定住に関する情報(求人、空き家、子育て、生活文化、世話人の紹介等)を発信するリーフレット等を配置するブースを設置します。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>※写真 道の駅来夢とごうち (広島県安芸太田町)</p> </div>  </div>
<p>配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通情報発信機能施設や観光情報発信・地域交流拠点機能施設と一体的に整備を進めることを検討します。

第3章 施設規模

1 駐車場規模の算定

(1) 交通量に基づく算出

道の駅は、休憩目的の道路利用者が利用できる十分な容量の駐車場を整備する必要があるため、周辺道路の交通量を基に、道の駅に必要な駐車場の規模を算出します。

① 交通量調査の結果

下図の地点で、平日と休日に交通量調査を実施しました。

駐車場規模の算出に当たり、その結果を次のとおり解析します。



交通量調査実施地点

【地点1】

自動車交通量調査結果集計表(方向別)	調 査 方 向 案 内 図	
調査年月日		
平成30年9月2日(日)		
調査時間		
7時～21時(14時間)		
天候		
曇時々雨		
調査地点		
地点.1 (仮)さんさん商店街前交差点		

【地点2】

自動車交通量調査結果集計表(方向別)	調 査 方 向 案 内 図	
調査年月日		
平成30年9月2日(日)		
調査時間		
7時～21時(14時間)		
天候		
曇時々雨		
調査地点		
地点.2 (仮)さんさん商店街出入口		

【地点3】

自動車交通量調査結果集計表(方向別)	調 査 方 向 案 内 図	
調査年月日		
平成30年9月2日(日)		
調査時間		
7時～21時(14時間)		
天候		
曇時々雨		
調査地点		
地点.3 (仮)志津川小学校入口		

交通量調査実施概要

続いて、工事車両抜と工事車両込それぞれについて、各地点の総流入量を以下に示します。

総流入量 (工事車両抜)		地点1 (仮) さんさん商店街前交差点				地点2 (仮) さんさん商店街出入口				地点3 (仮) 志津川小学校入口			
車両別		小型車類	大型車類	大型車 混入率 (%)	二輪車	小型車類	大型車類	大型車 混入率 (%)	二輪車	小型車類	大型車類	大型車 混入率 (%)	二輪車
休日	(7時～19時)	6,203	265	4.10%	134	664	43	6.08%	7	3,622	136	3.62%	67
	(9時～21時)	5,853	226	3.72%	131	1,196	29	2.37%	35	3,410	114	3.23%	65
	(7時～21時)	6,536	283	4.15%	144	1,260	37	2.85%	35	3,826	141	3.55%	70
平日	(7時～19時)	6,587	1,673	20.25%	52	664	43	6.08%	7	3,401	878	20.52%	26
	(9時～21時)	5,704	1,385	19.54%	46	626	37	5.58%	7	2,974	723	19.56%	26
	(7時～21時)	6,920	1,695	19.67%	52	679	43	5.96%	6	3,576	882	19.78%	30

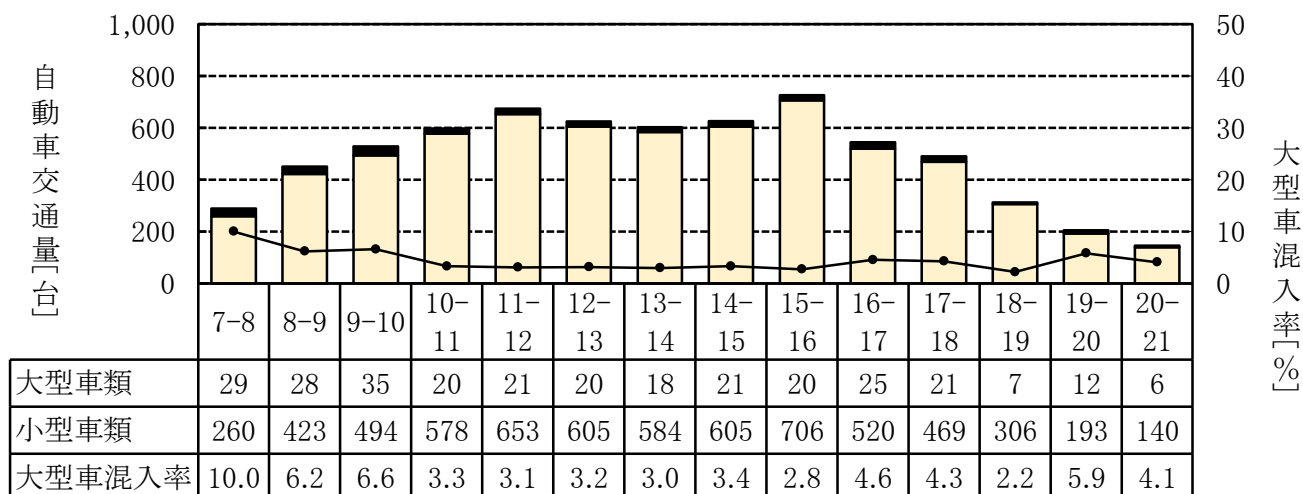
総流入量 (工事車両込)		地点1 (仮) さんさん商店街前交差点				地点2 (仮) さんさん商店街出入口				地点3 (仮) 志津川小学校入口			
車両別		小型車類	大型車類	大型車 混入率 (%)	二輪車	小型車類	大型車類	大型車 混入率 (%)	二輪車	小型車類	大型車類	大型車 混入率 (%)	二輪車
休日	(7時～19時)	6,203	265	4.10%	134	664	43	6.08%	7	3,622	136	3.62%	67
	(9時～21時)	5,853	226	3.72%	131	1,196	29	2.37%	35	3,410	114	3.23%	65
	(7時～21時)	6,536	283	4.15%	144	1,260	37	2.85%	35	3,826	141	3.55%	70
平日	(7時～19時)	6,587	1,989	23.19%	52	664	43	6.08%	7	3,401	878	20.52%	26
	(9時～21時)	5,704	1,657	22.51%	46	626	37	5.58%	7	2,974	723	19.56%	26
	(7時～21時)	6,920	2,011	22.52%	52	679	43	5.96%	6	3,576	882	19.78%	30

工事車両なし
工事車両あり

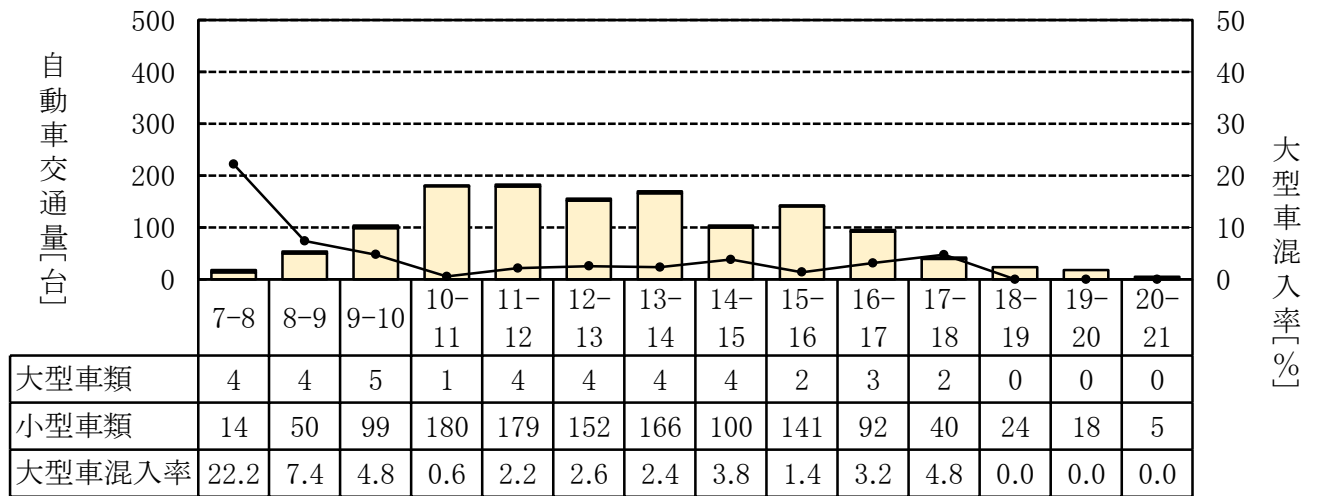
各地点における時間ごとの流入量、大型車混入率の変動を以下に示します。

■ 工事車両抜

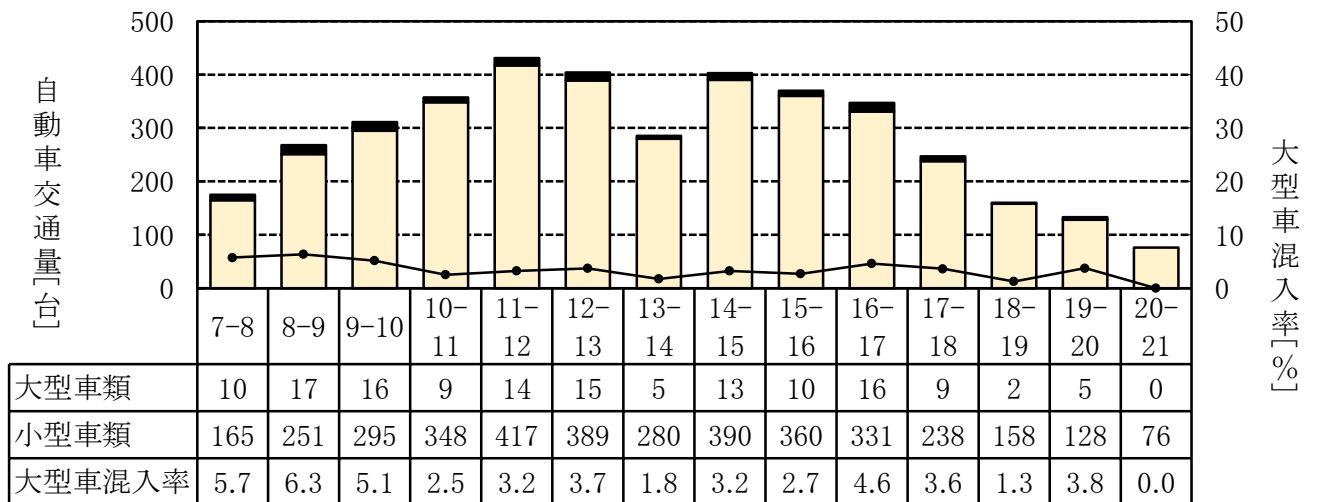
【地点1：(仮) さんさん商店街前交差点】



【地点2：(仮) さんさん商店街出入口】

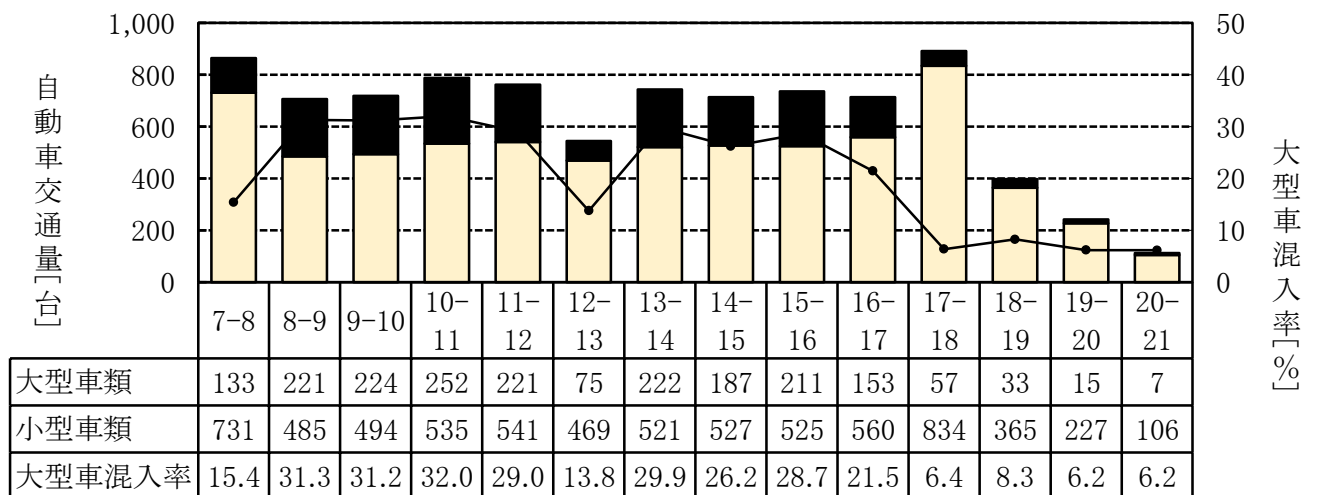


【地点3：(仮) 志津川小学校入口】

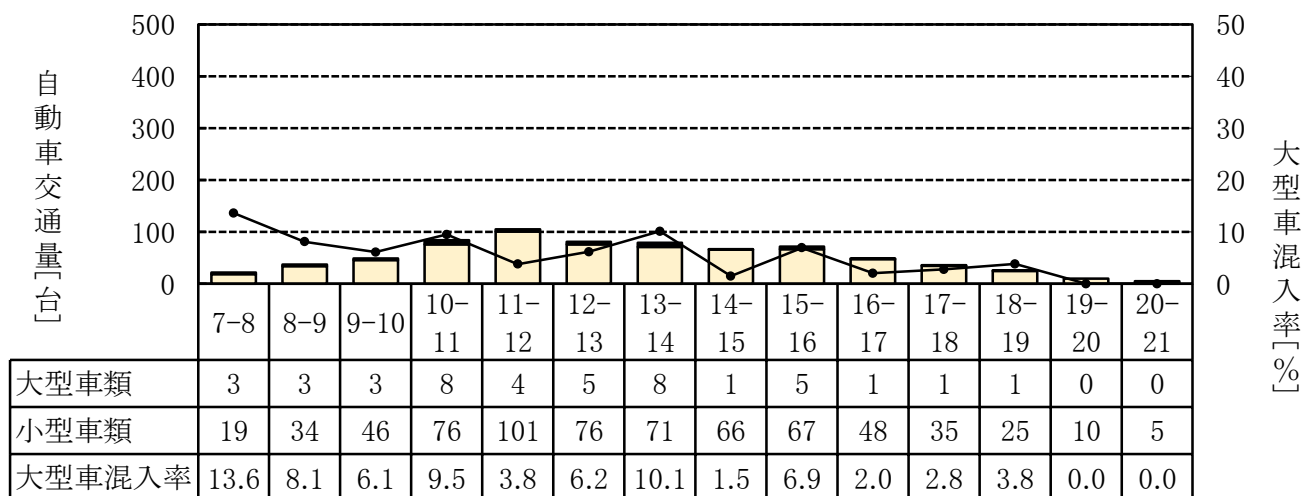


■ 工事車両

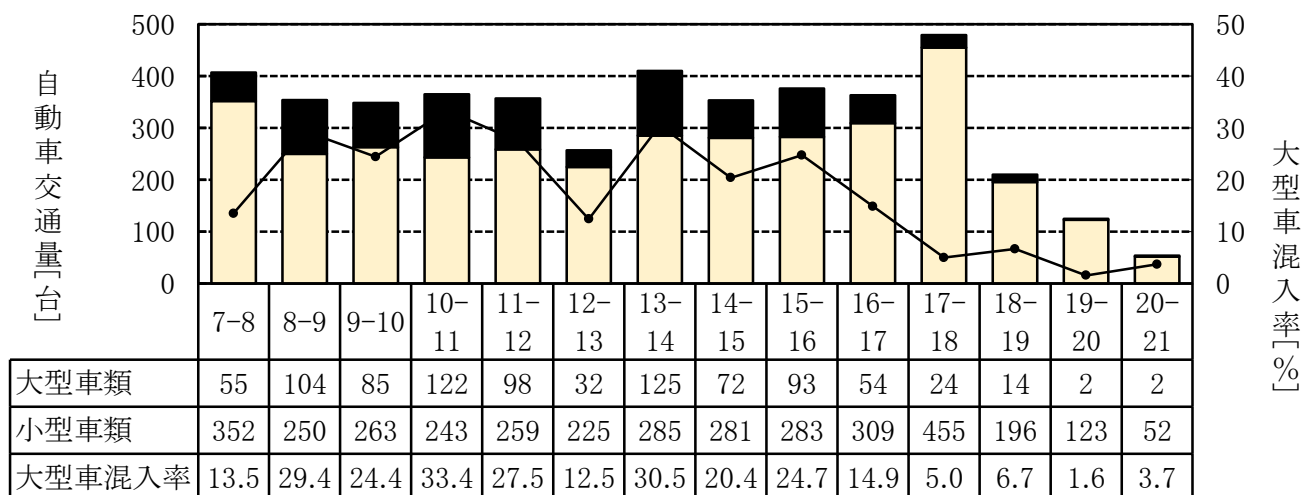
【地点1：(仮) さんさん商店街前交差点】



【地点2：(仮) さんさん商店街出入口】

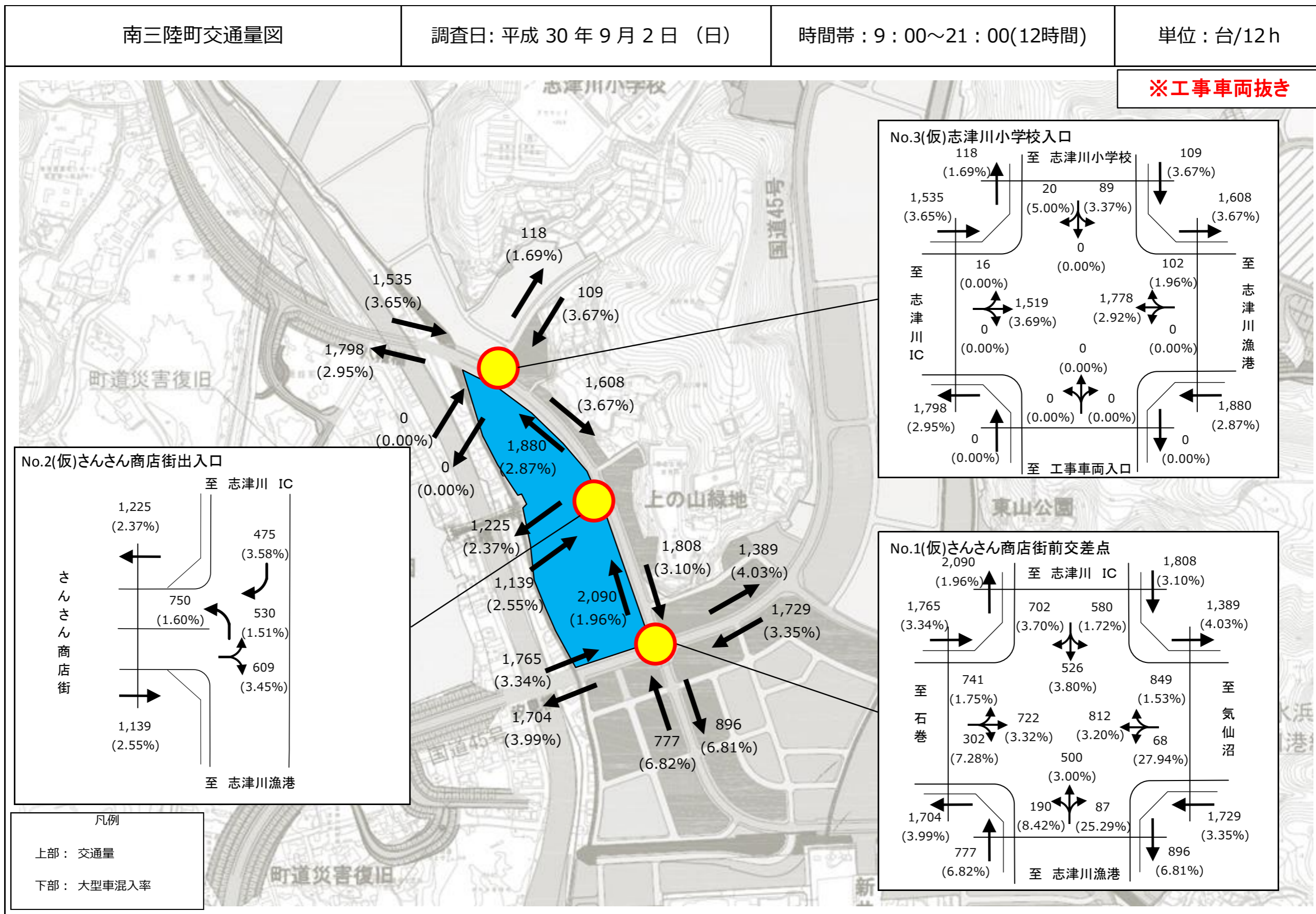


【地点3：(仮) 志津川小学校入口】

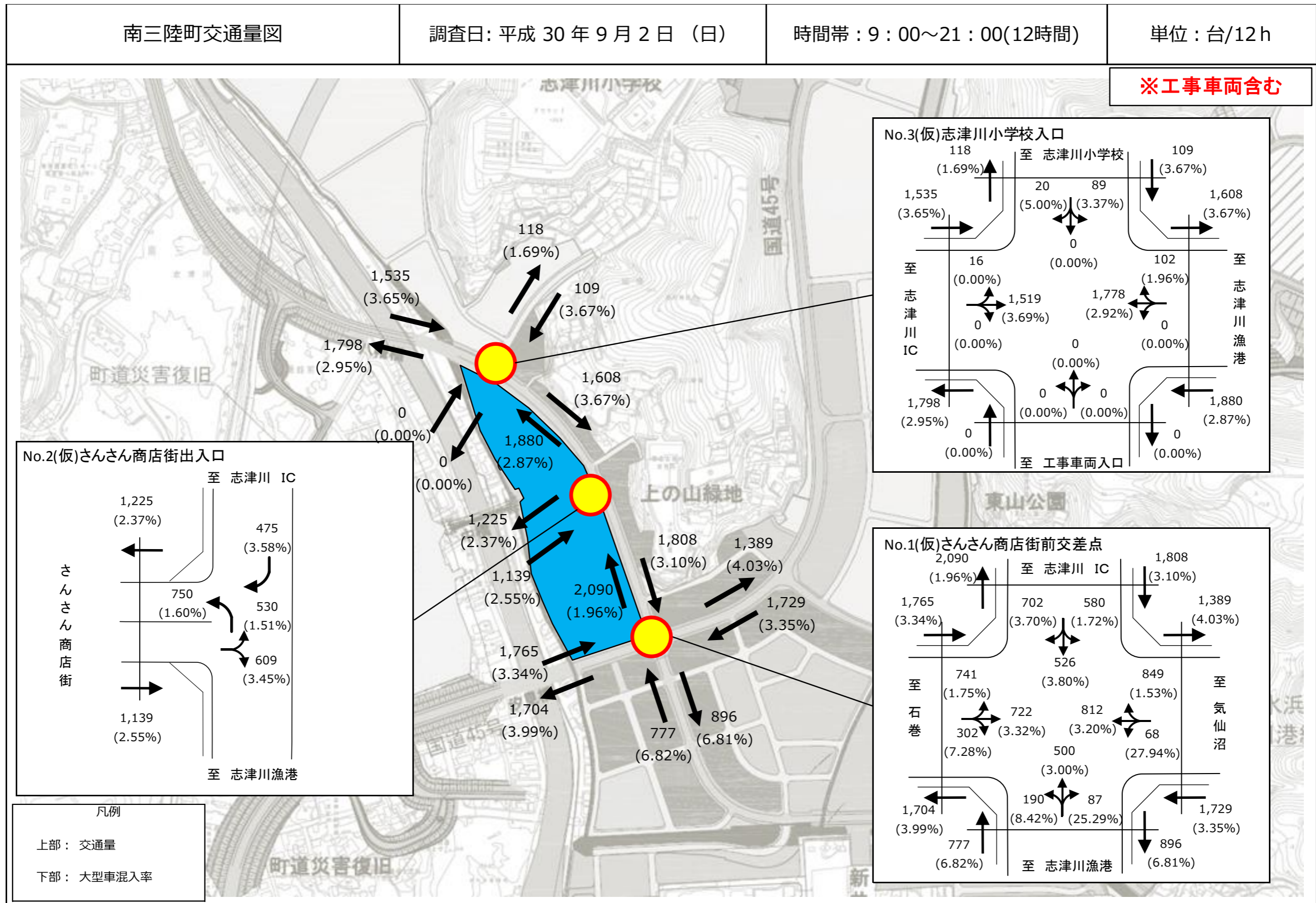


各地点における交通量図を以下に示します。

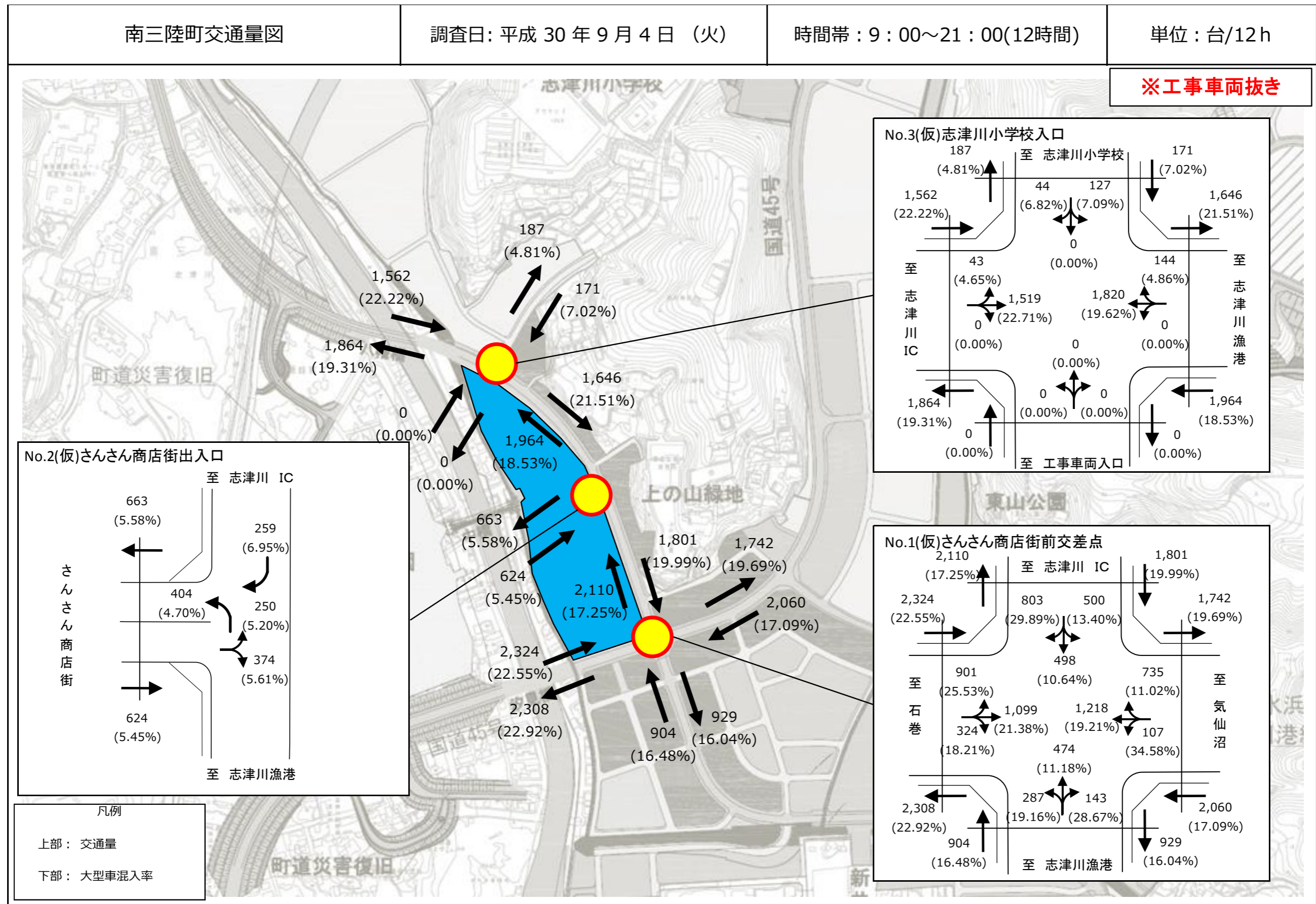
■交通量図（休日、工事車両抜）

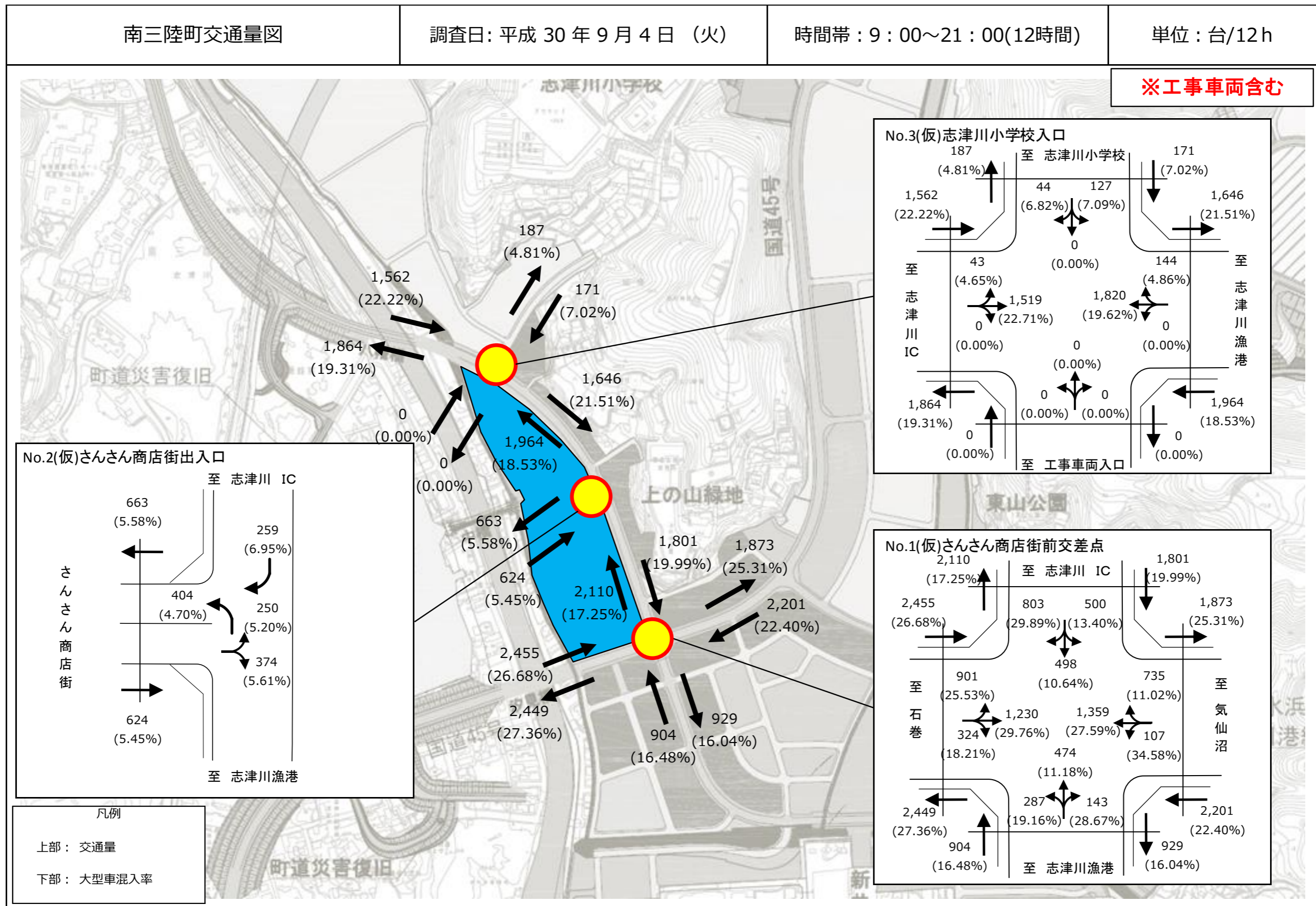


■交通量図 (休日、工事車両含)



■交通量図 (平日、工事車両抜)





② 計画交通量の算出

駐車まず数等の施設規模算出にあたり、計画交通量を設定するため、交通量調査の結果を以下に取りまとめ、設定に用いるデータを検討します。

	地点① (仮) さんさん商店街 交差点	地点② さんさん商店街出入口	地点③ (仮) 志津川小学校 出入口交差点
総流入量 (7-19時(12 時間))	【休日】施設規模算定に採用 小型車：6,203台 大型車：265台 大型車混入率：4.10%	【休日】 小型車：664台 大型車：43台 大型車混入率：6.08%	【休日】 小型車：3,622台 大型車：136台 大型車混入率：3.62%
	【平日】 小型車：6,587台 大型車：1,673台 大型車混入率：20.25%	【平日】 小型車：664台 大型車：43台 大型車混入率：6.08%	【平日】 小型車：3,401台 大型車：878台 大型車混入率：20.52%
	※工事車両抜	※工事車両抜	※工事車両抜
	調査地点の中で最も流入量が多い。	調査地点の中で最も流入量が少ない。	
大型車混入率	平日の方が大幅に増加する。	他の調査地点よりも大型車混入率は低い。	平日の方が大幅に増加する。
時間帯別 流入量	休日の流入量のピークは、15-16時台となっているが、10時以降は、600台以上が継続して流入している。 平日は、7-8時台、17-18時台に流入量のピークがある。	休日の流入量のピークは10-12時台にあり、午前中に集中している。 休日に比べて流入量は少ないが、休日同様午前中に流入量のピークがある。	休日の流入量は11-13時、14-15時に多いが、13-14時台は、一時的に流入量が減少する。 平日は、7-8時台と17-18時台にピークを迎える。工事車両は、10-14時の間に多い。

計画交通量(将来交通量)の算出にあたり、駐車場の需要が多い場合を考慮し、最も流入量が多く、道の駅予定地に隣接する交差点である地点1(仮)さんさん商店街前交差点入口への休日の流入量を基にし、算出を行うこととします。

$$\text{計画交通量} = \text{交差点への流入量} \times \text{人口伸び率} (\text{※1}) \times \text{昼夜率} (\text{※2})$$

※1 人口伸び率について

人口伸び率については、「南三陸町人口ビジョン」を参照して算出しました。2015年の総人口（12,368人）を基に、2030年の目標（9,400人）に対して直線補完を行い、道の駅完成予定の2021年時点までの人口増減率を人口伸び率（0.950）としました。

(3) 人口の将来展望

① 将来の人口目標

本町の人口ビジョンは、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンと同じく、2060（H72）年までの期間を対象とし、前述の「ケース4：出生率上昇+移動均衡（2030）」を踏まえ、次のとおり将来の人口目標を設定する。

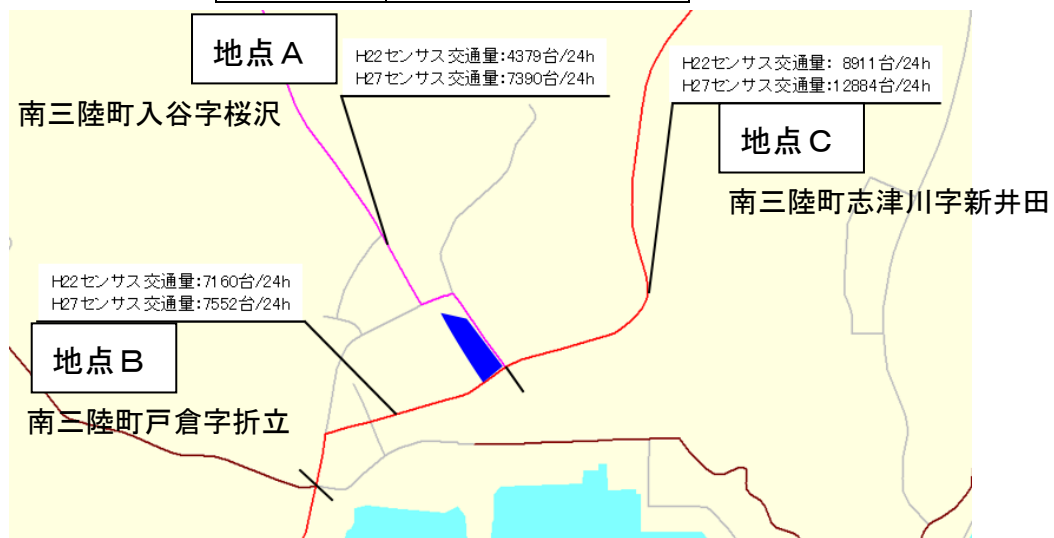
【本町の人口目標】

目標年	人口目標	基本ケースの推計値に対する改善数
2030（H42）年	9,400人	約400人
2040（H52）年	8,000人	約1,000人
2060（H72）年	5,900人	約2,200人

※2 昼夜率について

交通量調査は、7時から21時までの調査結果をもとに算出を行っているため、1日分に換算する必要があります。平成27年度道路交通センサスによると、近隣の調査区間3カ所（地点A、地点B、地点C）における昼夜率は以下の通りとなっています。交通量が多い場合に対応するため、昼夜率が最も高い地点（地点A：1.23）の昼夜率を採用し、計画交通量（台/日）に換算します。

地点	昼夜率
地点A	1.23
地点B	1.19
地点C	1.17



よって、交通量調査から算出した交通量（台／12h）に、人口伸び率・昼夜率を乗じ、1日分に換算した数値を計画交通量とします。

$$\text{計画交通量} = \text{交差点への流入量} \times \text{人口伸び率} \times \text{昼夜率}$$

車両種別	交通量 (台／12h)	人口伸び率	昼夜率	計画交通量 (台／24h)
全体	6,468	0.950	1.23	7,558
小型車	6,203			7,249
大型車	265			310

※駐車場規模算出に用いる計画交通量は、計算結果を切り上げた数値とする。

③ 必要規模の算出

算出した計画交通量を基に、駐車場規模の算出を行います。

算出は、「設計要領第四集休憩施設設計要領(東日本高速道路㈱平成17年10月)」に基づいて行います。

(算出方法)

- ・ 駐車マス数(片側) = 片側設計交通量 × 立寄率 × ラッシュ率 ÷ 回転率
- ・ 片側設計交通量 = (休日サービス係数) × (開通10年後計画日交通量) × 1/2

(算出に用いる規定値)

施設の種類	車種	立寄率	ラッシュ率	回転率
パーキングエリア	小型車	0.100	0.100	4.000
	大型バス	0.100	0.250	4.000
	大型貨物	0.125	0.100	3.000

※諸数値について

サービス係数について

年平均交通量 Q (両方向：台/日)	サービス係数
$0 < Q \leq 25,000$	1.40
$25,000 < Q \leq 50,000$	$1.65 - Q \times 10^{-5}$
$50,000 < Q$	1.15

立寄率：立寄台数 (台/日) / 本線交通量 (台/日)

ラッシュ率：ラッシュ時立寄台数 (台/時) / 立寄台数 (台/日)

回転率：1 (時) / 平均駐車時間 (時)

■算出結果

	パーキングエリア		
	小型車	大型バス	大型貨物車
片側設計交通量 S (台/24h) (S=計画交通量×Q/2)	5,072	81	136
立寄率 A	0.100	0.100	0.125
ラッシュ率 R	0.100	0.250	0.100
回転率 D	4	4	3
駐車ます数 (ます) (S×A×R/D×2)	25 台	1 台	1 台
総駐車ます数 (ます)	27 台		

※ 大型バスと大型貨物車の比については、設計要領第六集の車種構成比 (3 : 5) を用います。

◎まとめ

交通量に応じた駐車場を計算した結果、最低限 **27台** の整備が必要。

(27台整備で基準を満たすが、それ以上整備しても問題はない)。

(2) 参考データ

① 既存施設の利用

当町の道の駅は、既存の施設（さんさん商店街・ポータルセンター）を道の駅の機能として位置付けています。

そこで、平成25年度に行った、さんさん商店街（仮設店舗）及びポータルセンター周辺駐車場の利用状況に関するヒアリング結果を次に記載します。

小型車・大型車合わせて、利用者が最も多い時期には、駐車場に入れなかったと思われる乗用車も含めると235台分の需要があることがわかります。これが、過去の混雑期を参考とした、さんさん商店街やポータルセンターに必要な駐車ます数となります。

【休日】

単位：台

	名称	駐車 可能 台数	駐車台数		
			ケース1	ケース2	ケース3
			混雑する時期	平均的な時期	閑散期
			GW大型連休	5月休日	12月休日
駐車場1	北側駐車場	70	70	40	15
駐車場2	南側駐車場(モアイ側)	50	50	30	15
駐車場3	旧合同庁舎跡地	80	80	45	20
駐車場4	南三陸ポータルセンター	10	10	5	5
駐車場5	大型車両用駐車場	5	5	3	2
計		215	215	123	57
駐車場に入れなかったと思われる駐車場台数がある場合はその台数⇒			20		

② 震災伝承機能施設の利用

県内の類似施設は、以下のとおりです。

施設名	所在地	面積	駐車ます数
気仙沼海の市 シャークミュージアム	宮城県気仙沼市	6 1 7 m ² (展示面積)	9 6 台
リアス・アーク美術館	宮城県気仙沼市	4, 6 0 1 m ² (総面積)	5 0 台
唐桑半島ビジターセンター&津波 体験館	宮城県気仙沼市	—	3 0 台
石巻市復興まちづくり情報交流館 雄勝館	宮城県石巻市	1 0 3 m ²	約 3 0 台 ※専用駐車場ではなく 公有の空き地を活用
石巻市復興まちづくり情報交流館 牡鹿館	宮城県石巻市	1 3 0 m ²	約 3 0 台 ※専用駐車場ではなく 公有の空き地を活用
石巻市復興まちづくり情報交流館 北上館	宮城県石巻市	1 2 4 m ²	約 1 0 台 ※専用駐車場ではなく 公有の空き地を活用
東松島市震災復興伝承館	宮城県東松島市	3 8 0 m ²	3 5 台
山元町防災拠点・山下地域交流セ ンター	宮城県山元町	1, 6 3 4 m ² (1階)	5 4 台 (交流センター敷地内)

施設によって、施設規模と駐車ます数の相関はばらつきがありますが、どの施設についても、30～50台程度の駐車ます数となっています。

③ 周辺施設の利用

また、道の駅の駐車場には、道の駅の周辺に整備する震災復興記念公園の利用も見込まれます（20台程度）。

2 トイレ規模の算定

国土交通省道路局・防災課出典「道の駅のトイレの改善に関するチェックポイント」では、トイレについて次のとおり記載されています。

- ・ 道路管理者が整備するトイレは、NEXCO設計要領（PA基準）を準用した規模設定が必要。
- ・ 地域振興施設のトイレは、道路管理者が整備するトイレとは別に、設置者において地域振興施設の特徴を踏まえた適切な規模確保の検討が必要。



- 地域振興施設は、さんさん商店街になり、既設の22基で充足されています。
- 道路管理者が整備するトイレは「設計要領第六集建築施設編（東日本高速道路(株)平成30年7月）」に基づき以下のとおり算出します。なお、震災伝承施設に大型バスでの来場が予想されることから、余裕を持った台数：31で計算をします（基準27台＋予備4台）。

※パーキングエリア（ハイウェイショップ無）として設定 駐車ます数 **31** 台

項目		記号	小型	バス	貨物
総駐車ます数		P	31		
車種構成率		S	0.90	0.02	0.08
駐車ます数			26	3	2
駐車回転率（回/h）		r	4	4	3
車種別駐車台数（台/h）		$P_a = P * S * r$	112	3	8
平均乗車人数		w	1.7	20	1.1
立寄人数（人/h）		$N = P_a * w$	190	60	9
立寄人数合計（人/h）		ΣN	259		
利用率		u	0.71		
トイレ利用人数（人/h）		$NL = u * N$	184		
性別比率	男	D_m	0.59		
	女	D_f	0.41		
ピーク率	男	P_m	2.6		
	女	P_f	3.7		
性別利用人数（人/h）	男	$NL_m = NL * D_m * P_m$	282		
	女	$NL_f = NL * D_f * P_f$	279		
便器回転率（人/h）	男	C_m	95人/h		
	女	C_f	40人/h		
便器数	男 小	$V_{m1} = 0.8 * NL_m / C_m$	3.00		
	男 大	$V_{m2} = 0.6 * V_{m1}$	2.00		
	女	$V_f = NL_f / C_f$	7.00		
洗面器回転率（人/h）	男	S_m	360人/h		
	女	S_f	215人/h		
洗面器数	男	$V_{S_m} = NL_m / S_m$	1		
	女	$V_{S_f} = NL_f / S_f$	2		
1人あたり面積（㎡）	男 小	U_m	3		
	男 大、女	U_f	5.4		
	洗面器	U_s	3		
トイレ施設面積（㎡）			78		

■ トイレ規模の決定

	既設さんさん商店街の基数	道の駅駅舎（震災伝承施設）の基数
男性用（小）	7	3
男性用（大）	4	2
女性用	10	7
多機能	1	1
計	22	13

「設計要領第六集建築施設編（東日本高速道路株平成30年7月）」に基づき算出した結果、新設する道の駅駅舎（震災伝承施設（※P35道の駅整備方針の施設配置を参照））には、**13基**のトイレを新設することとします。

また、新設する道の駅駅舎（震災伝承施設）のトイレ面積については、1人あたり面積を参考に、次のとおりとします。

■ トイレ数算出表		基数	1人あたり面積 (㎡)	面積計 (㎡)
男性	小	3	3.0	9.0
男性	大	2	5.4	10.8
女性		7	5.4	37.8
洗面器		4	3.0	12.0
多機能		1	10.8	10.8
合計				80.4

※ 洗面器数は、「設計要領第六集建築施設編（東日本高速道路株式会社平成30年7月）」により算出した基数を参考に、男性2基、女性2基としました。

3 その他施設規模の算定

(1) 交通情報発信機能施設

道の駅の必須機能である、交通情報発信機能については、効果的な情報発信が行える規模を確保し、より多くの方の目に留まるような配置とします。

面積	50 m ²
----	-------------------

(2) 公共交通拠点施設

待合室・販売窓口、駅事務室、旅客便所、乗降場を備えた旧志津川駅と同等の規模を想定します。

面積	54.5 m ²
----	---------------------

(一般社団法人 鉄道建築協会HP参照)



(3) 観光情報発信・地域交流拠点機能施設

既存のポータルセンター機能に移住総合窓口機能を加えて整備するよう検討し、面積は既存施設と同等の400 m²を想定します。

面積	400 m ²
----	--------------------

施設	部屋サイズ	スクール (3人掛け)	シアター	扇型 (3人掛け)	口の字 (3人掛け)	コの字	基本料金
研修室1~3 (1部屋利用)	45.8m ² 約5.4m×16.3m	24名 ※1	40名	36名 6扇	24名	18名	町内団体600円～ 町外団体1200円～ (2時間まで)
研修室1+2 研修室2+3 (2部屋利用)	91.6m ² 約10.8m×16.3m	48名 ※1	80名	72名 12扇	42名 ※2	36名 ※2	町内団体1200円～ 町外団体2400円～ (2時間まで)
研修室1+2+3 (3部屋利用)	137.4m ² 約16.2m×16.3m	72名 ※1	120名	108名 18扇	60名 ※2	54名 ※2	町内団体1800円～ 町外団体3600円～ (2時間まで)

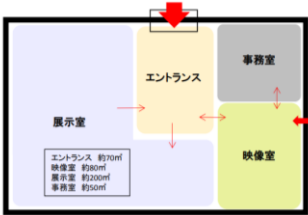



(南三陸町観光協会HPから引用)

(4) 震災伝承機能施設

下表に類似施設の震災伝承に関する施設の機能と規模を示します。土地利用面積を考慮し、また、他の類似施設を参考にし、同規模の400㎡で検討を進めます。

面積	400㎡
----	------

震災メモリアルパーク (岩手県釜石市)		
<ul style="list-style-type: none"> ●映像室 (50席以上) ●展示室 (実物資料、写真、映像、解説文、体験者の証言等) ●エントランス (特集展示コーナー) ●事務室 (資料収蔵、応接等の機能も) ●その他施設 	映像室： 80㎡ 展示室： 200㎡ エントランス： 70㎡ 事務室： 50㎡ (既存施設活用)	
		400㎡

もぐらんぴあ (防災展示室あーすぴあ) (岩手県久慈市)		
<ul style="list-style-type: none"> ●モニター展示 ●写真展示 ●遺構展示 ●防災関連パネル展示 	延べ床面積 1,485㎡ (RC造5階建)	
		

震災津波伝承施設 (仮称) (岩手県陸前高田市)		
<ul style="list-style-type: none"> ●模型・映像 ●遺構 (被災車両、駅名看板等) ●震災アーカイブ検索機能 ●ガイダンスシアター ●証言発信展示 ●災害対策室 ●パネル展示 ●セミナー室、休憩スペース 	エントランス・風除室： 195㎡ 展示スペース： 1,145㎡ バックヤード： 135㎡ 1,475㎡	
		

南浜つなぐ館（宮城県石巻市）		
<ul style="list-style-type: none"> ●復興記念公園の計画案展示 ●VRグラス ●パネル展示 ●シアタールーム 	 	延べ床面積 86.9㎡
慰霊碑・伝承鎮魂祈念館（福島県相馬市）		
<ul style="list-style-type: none"> ●写真パネル（震災直後、震災前） ●映像コーナー ●市が保管する写真展示 	  	建築面積 236.2㎡
震災復興伝承館（宮城県東松島市）		
<ul style="list-style-type: none"> ●展示スペース①（復興まちづくり、環境未来都市情報発信コーナー、復興の森づくり紹介コーナー） ●展示スペース②（被害状況、復興過程の写真パネル展示、震災アーカイブ映像の上映（40席）） 	 	延床面積 380㎡
長崎県南島原市 道の駅 みずなし本陣		
<p>【大火砕流体験館】 この施設では、雲仙普賢岳噴火時の火砕流・土石流を体験する体験型施設です。当時の実際映像のみを使用し、わかりやすく約9分にまとめています。また、着席シートはボディソニックシステム（体感音響装置）を使用し火砕流・土石流の地響きが伝わってくるような感覚も体験できます。</p>		体験館：約100㎡ 施設全体：約330㎡

(5) 「エコタウンへの挑戦」発信機能施設

環境に配慮した取り組みを紹介するブース（林業・漁業に関するパネル・標本・模型展示）を30㎡と想定し、検討を進めます。

面積	30㎡
----	-----

● 施設規模まとめ

導入機能	導入施設イメージ		想定規模
駐車場	多くの方々が快適に利用できるよう、十分な規模を確保し、周辺施設への動線、気候や時間帯に対応した利用にも配慮した、使いやすい駐車場とします。		必要最低数：27台 余裕をみて：31台 (小型車：26台) (大型車：5台)
	規模算定の考え方	各施設の利用見込みに基づく算出	
トイレ	全ての方が安心して快適に利用できるトイレとします。 ※既設トイレを除く		男(小)：3基 男(大)：2基 女：7基 多機能：1基 計：13基
	規模算定の考え方	設計要領第六集休憩施設設計要領により算出	約80㎡
交通情報発信機能施設	道の駅周辺の道路交通情報を効果的に発信できるよう検討します。また、より多くの来訪者の目に留まるよう、利用者動線を考慮した配置とします。		
	規模算定の考え方	効果的に情報を発信できるよう検討	約50㎡
公共交通拠点施設	道の駅や周辺施設への動線を確保し、町のゲートウェイとして利用しやすい公共交通拠点とします。		
	規模算定の考え方	旧仮設志津川駅と同等を想定	約55㎡
観光情報発信・地域交流拠点機能施設	防災教育の講義や研修、会議など、様々な場面で活用できる多目的スペースを整備します。 また、既存の南三陸ポータルセンターの機能を継承し観光案内所、ギャラリー、手作り品販売スペースなど来訪者や地域住民のにぎわい、交流の空間を整備します。		
	規模算定の考え方	既存施設と同等を想定	約400㎡
震災伝承機能施設	後世に伝えるべき震災に関する情報を発信する拠点施設とします。震災関連遺物や写真・パネル展示、映像シアター、模型、資料閲覧コーナーなどを設置します。 ※施設の内容については、「震災伝承施設基本計画」において定めます。		
	規模算定の考え方	周辺の類似施設規模を参照	約400㎡
エコタウンへの挑戦発信機能施設	国際認証(ASC、FSC)を取得した活動や、バイオマスをはじめとするエコタウン関連の取組を紹介するブースのほか、再生エネルギー等を活用した発電・蓄電等のエコ体験設備の整備を検討します。		
	規模算定の考え方	他の施設内に整備し効果的に情報を発信する	(30)㎡
施設面積(駐車場を除く)			約1,015㎡

第4章 道の駅整備方針

前章で検討した施設規模を基に、南三陸町道の駅整備推進協議会で協議を行い、以下のとおり施設配置（土地利用）を検討しました。

